

外国出張報告書

平成 27 年 12 月 17 日

1. 出張国名 ラオス
2. 出張月 平成 26 年 11 月～12 月
3. 出張目的 雨季水田の観測データの収集、乾季作の栽培・土壌水分観測の準備及び開始、ワークショップ及びAnnual meetingの参加、乾季作のためのため池貯留水の利用に向けた乾季におけるため池・用水路及び水稲作圃場の状況確認等及び現地検討会への参加：C

4. 成果の概要

ビエンチャン県ナムアン村において、乾季においても上流河川からため池への流入及びため池から水路への流出があり、一部水田圃場では湛水が生じていた。ため池管理者に聞き取り調査を行い、養殖した魚を収穫するための水抜き作業が主に4月に行われていることを明らかにした。圃場内の雨水の集水試験の結果、集水区から給水を受けた圃場と対照区の田面湛水の開始時期に差は生じなかった。灌漑条件の乾季水田畑作試験を開始し、ダイズ及びトウモロコシで良好な発芽状況を確認した。気象機器、流量観測機器のデータを回収する。

サワナケート県クッカー村の陸稲・水稲の組合せ栽培において、多雨により陸稲、水稲ともに2013年に比べて高い収量が得られたが、雨水供給の有無による収量差は得られなかった。

プロジェクト現地検討会に参加し、雨期水稲・乾季水田畑作のための灌漑調査結果、田面湛水開始時期と移植時期の調査結果、移植時期による水稲収量の増減傾向について発表した。